

# ラナデ, R. R. 先生を送る

経済学部長  
長山貴之

ラナデ先生は2022年3月31日をもって香川大学経済学部を定年により退職されました。香川大学経済学会は、ラナデ先生から賜った学恩に対し感謝の意を表するため、本書をラナデ先生の退職記念号とし、ここに謹んで献呈いたします。

ラナデ先生は、香川大学にご着任以来36年間にわたり、数理経済学の研究および教育に携わってこられました。香川大学はラナデ先生の多大なるご功績に対し、本年4月に名誉教授の称号をお贈りいたしました。

ラナデ先生は1956年12月にインドのNagpurでお生まれになりました。その後、1975年5月にInstitute of Science, Nagpurの学士課程を卒業され、同年8月にIndian Statistical Instituteの修士課程に進学して1977年5月に一つ目の修士号を取得された後、同年7月にDelhi School of Economicsの修士課程に進学して1979年6月に二つ目の修士号を取得されました。1979年7月から1981年5月までJawaharlal Nehru Universityで下級研究員を、1981年9月から1985年9月までDelhi School of Economicsで講師を、それぞれ務められた後、1985年10月に香川大学経済学部講師に着任されました。1987年にJawaharlal Nehru UniversityでPh. D.を取得された後、同年12月に香川大学経済学部助教授に、1998年12月に経済学部教授に、それぞれ昇任されました。

この間、教育活動においては、経済学教育において必要不可欠な経済数学や数理経済学などを担当されました。また、英語による授業も長年にわたり担当されました。学部および大学院の演習においては、英語と数学を用いた指導により、数多くの有為な人材を輩出され、本学の人材育成に貢献されました。

ラナデ先生の研究テーマは社会選択理論と産業連関論であり、これらの数理

的研究は以下のように大別されます。

第一に、社会選択理論に関する研究であり、選択関数における一貫性の条件や、選好の制限と多数決ルール、そしてタイ・ブレイキング・メカニズムについて研究を深められ、ケネス・J・アローの不可能性定理とアマルティア・センのパレート拡張の基礎を明確にするための条件を明らかにされました。

まず、アローの不可能性定理では選好の合理性、すなわち反射性、完備性、推移性を持つ二項関係を仮定しています。選択関数とは、選択肢の集合である機会集合に最良な選択集合を対応させる集合値関数です。ラナデ先生は、二つの新しい理論的条件を構築することで、選択関数と二項関係との結びつきを明らかにされました。

次に、社会的意思決定メカニズムは不可能性定理によって制約を受けますが、合理的な社会的選好を生み出す個人の選好に関する必要十分条件は多くのメカニズムに対して明らかにされています。しかし、同点引き分けの状態とそれを決着させる追加的なメカニズムがあるなら、事情は変わってきます。社会的選択の観点から同じ程度に好ましい選択肢がある場合、最後にタイ・ブレイキング・メカニズムが使われます。ラナデ先生は、タイ・ブレイキング・メカニズムを追加することで、社会的選好を生み出す個人の選好に関する条件がどのように変化するかを明らかにされ、人々の個人的選好と最終的な選択との関係について独創的な説明をされました。

さらに、二つの重要な定理であるアローの不可能性定理とセンのパレート拡張ルールを用いた可能性定理は、その証明においてあるテクニックを使用します。ラナデ先生は、このテクニックの特性に対する必要十分条件となる選好に関する二つの条件を提示されました。

第二に、産業連関論に関しては、古典派経済学や新古典派経済学の手法を用いた多部門投入産出モデルにおいて、技術の変化が労働搾取や利潤率や価値に及ぼす影響に関する研究が行われました。特に、生産性と利潤の保証に関する有名なホーキンス・サイモン条件について、その研究を深められました。多部門を扱う古典派経済学的分析は大変複雑なモデルとなるため、ラナデ先生の一

連の研究は高く評価されるものです。

以上の理論的な研究を背景として、経済的不平等、経済発展、観光経済等の幅広い分野に研究を広げられました。

国際交流活動における貢献も極めて大きく、香川大学経済学部とタイのチェンマイ大学経済学部との学生及び教員の研究・教育交流をはじめとして、インドの Dr. ババサヘブ・アンベッカー・マラスワダ大学経済学部との国際交流協定の締結、米国カリフォルニア州立大学フラトン校における研修プログラム、そして多数の留学生の受け入れに貢献されました。

管理運営面においても、ラナデ先生は多大な貢献をされました。学部国際交流委員（1994, 1998, 2008～2009, 2018～2019年度）、研究教育委員長（2000年度）、経済学科長（2001年度）、広報企画委員長（2003～2004年度）、Chiang Mai 大学との共催シンポジウム準備委員会委員（2007～2008年度）、ダブルディグリー・ワーキング・グループ委員（2007年度）、DNA 実験安全委員（2007～2008年度）、人文社会系博士課程検討ワーキング・グループ委員（2007～2009年度）、学部国際交流委員長（2010～2011, 2013～2016年度）、学術交流協定締結大学専門委員（2013～2021年度）などを歴任され、学部および研究科のために尽力されました。

社会貢献活動では、高松聴覚障害者協会の講師（2010年度）のほか、Kagawa-Chiang Mai Symposium プログラム委員・座長（2008年度）、Economic Theory and Policy Conference 座長（2009, 2012年度）などを務められました。

本学の研究、教育、管理運営、社会貢献のいずれの活動においても、上述したように多大なる貢献をされたラナデ先生を、定年退職とはいえ失うことは本学にとって誠に大きな痛手です。ラナデ先生が今後ともご健勝であられることを心より祈念いたしますとともに、我々後進のためにご指導、ご鞭撻をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。